(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2010-200633
(P2010-200633A)
(43)公開日　平成22年9月16日(2010.9.16)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A01M 1/20	(2006.01)	A01M 1/20	C	2B121

審査請求 未請求　請求項の数 11　ＯＬ　（全 12 頁）

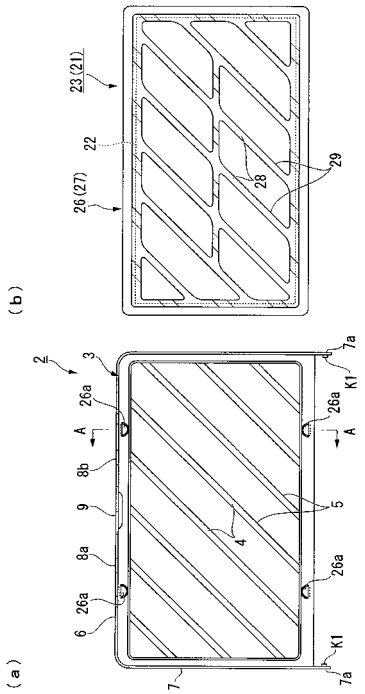
(21)出願番号　特願2009-47183(P2009-47183)
(22)出願日　平成21年2月27日(2009.2.27)

(71)出願人　000003193
凸版印刷株式会社
東京都台東区台東１丁目５番１号
(71)出願人　000207584
大日本除蟲菊株式会社
大阪府大阪市西区土佐堀１丁目４番１１号
(74)代理人　100139686
弁理士　鈴木　史朗
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100148873
弁理士　渡辺　浩史
(74)代理人　100108578
弁理士　高橋　詔男

最終頁に続く

(54)【発明の名称】防虫剤容器

(57)【要約】
【課題】薬剤マットを交換可能とした防虫剤容器において、薬剤マットの交換作業の容易化及びコストダウンを図る。
【解決手段】真空形成法により製作したカートリッジ容器２３内に薬剤マット２２を収容して薬剤マットカートリッジ２１とし、該薬剤マットカートリッジ２１を射出成形法により製作した外容器２内に交換可能に収容する。
【選択図】図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
真空形成法により製作した内容器内に薬剤マットを収容して薬剤マットカートリッジとし、該薬剤マットカートリッジを射出成形法により製作した外容器内に交換可能に収容したことを特徴とする防虫剤容器。
【請求項２】
内面に薬剤カートリッジを収納すると共に外面には開口部が形成された収納部材を、側部材、中央部材、側部材で構成し、これら各部材を、一平面に沿うように並べた展開状態と、前記各側部材同士を向かい合わせるように畳んだ折り畳み状態との間で回動可能に連結してなることを特徴とする防虫剤容器。
【請求項３】
前記側部材が平面視で長方形状をなすと共に、前記中央部材は前記側部材の長辺と同等の長さの長辺と側部材の短辺よりも幅狭の短辺とを有する長方形状をなし、前記折り畳み状態では、前記各部材がコの字状を形成することを特徴とする請求項２に記載の防虫剤容器。
【請求項４】
前記薬剤カートリッジは、前記側部材より小さくかつ該側部材の厚さ方向に所定の厚さを有すると共に外面にカートリッジ開口部を形成した扁平状のトレーと、該トレーに固定される薬剤マットとからなることを特徴とする請求項２又は３に記載の防虫剤容器。
【請求項５】
前記中央部材は、インジケータ収納部と、中央薬剤マットを収納・固定する中央収納部と、中央開口部を有する蓋部材とを有してなることを特徴とする請求項２から４の何れか１項に記載の防虫剤容器。
【請求項６】
前記薬剤カートリッジ内の薬剤マットは、防虫成分を有する防虫剤が担持された多孔質マットからなり、前記中央薬剤マットは、消臭剤成分が担持された多孔質マットからなることを特徴とする請求項５に記載の防虫剤容器。
【請求項７】
前記各側部材は、斜めに傾斜した格子によって前記開口部を形成し、前記各側部材の格子は、前記折り畳み状態の平面視で互いに交差するように設けられることを特徴とする請求項２から６の何れか１項に記載の防虫剤容器。
【請求項８】
前記収納部材の内面側に前記薬剤カートリッジを固定する係止部を設けたことを特徴とする請求項２から７の何れか１項に記載の防虫剤容器。
【請求項９】
前記側部材の長辺側に吊り下げ用フックを設けたことを特徴とする請求項２から８の何れか１項に記載の防虫剤容器。
【請求項１０】
前記吊り下げ用フックを前記側部材から取り外し可能に設けたことを特徴とする請求項９に記載の防虫剤容器。
【請求項１１】
前記側部材の長辺側に転倒防止片を設けたことを特徴とする請求項２から１０の何れか１項に記載の防虫剤容器。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、薬剤マットを交換可能とした防虫剤容器に関する。
【背景技術】

【０００２】
従来、射出成形法により製作された容器本体内に、インサート射出成形法により製作された取っ手付きの薬剤マットを交換可能に収容してなり、使用済みの薬剤マットを新しいものに交換可能とした詰め替え式の防虫剤容器が知られている（例えば、特許文献１参照。）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００３－２５０４１４号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、上記従来の構成では、薬剤マットに取っ手があるもののその交換時には依然として薬剤マットが手に触れ易く、この場合、薬剤マットに含浸された薬剤が手に付着することとなり、薬剤マットの交換時に手を洗浄する手間が生じ易かった。また、インサート射出成形法により薬剤マット及び取っ手を一体に設けることで、薬剤マットのコストアップとなり易かった。
そこでこの発明は、薬剤マットを交換可能とした防虫剤容器において、薬剤マットの交換作業の容易化及びコストダウンを図ることを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
上記課題の解決手段として、請求項１に記載した発明は、真空形成法により製作した内容器内に薬剤マットを収容して薬剤マットカートリッジとし、該薬剤マットカートリッジを射出成形法により製作した外容器内に交換可能に収容したことを特徴とする。
請求項２に記載した発明は、
内面に薬剤カートリッジを収納すると共に外面には開口部が形成された収納部材を、側部材、中央部材、側部材で構成し、これら各部材を、一平面に沿うように並べた展開状態と、前記各側部材同士を向かい合わせるように畳んだ折り畳み状態との間で回動可能に連結してなることを特徴とする。
請求項３に記載した発明は、前記側部材が平面視で長方形状をなすと共に、前記中央部材は前記側部材の長辺と同等の長さの長辺と側部材の短辺よりも幅狭の短辺とを有する長方形状をなし、前記折り畳み状態では、前記各部材がコの字状を形成することを特徴とする。
請求項４に記載した発明は、前記薬剤カートリッジは、前記側部材より小さくかつ該側部材の厚さ方向に所定の厚さを有すると共に外面にカートリッジ開口部を形成した扁平状のトレーと、該トレーに固定される薬剤マットとからなることを特徴とする。
請求項５に記載した発明は、前記中央部材は、インジケータ収納部と、中央薬剤マットを収納・固定する中央収納部と、中央開口部を有する蓋部材とを有してなることを特徴とする。
請求項６に記載した発明は、前記薬剤カートリッジ内の薬剤マットは、防虫成分を有する防虫剤が担持された多孔質マットからなり、前記中央薬剤マットは、消臭剤成分が担持された多孔質マットからなることを特徴とする。
請求項７に記載した発明は、前記各側部材は、斜めに傾斜した格子によって前記開口部を形成し、前記各側部材の格子は、前記折り畳み状態の平面視で互いに交差するように設けられることを特徴とする。
請求項８に記載した発明は、前記収納部材の内面側に前記薬剤カートリッジを固定する係止部を設けたことを特徴とする。
請求項９に記載した発明は、前記側部材の長辺側に吊り下げ用フックを設けたことを特徴とする。
請求項１０に記載した発明は、前記吊り下げ用フックを前記側部材から取り外し可能に

設けたことを特徴とする。
請求項１１に記載した発明は、前記側部材の長辺側に転倒防止片を設けたことを特徴とする。
【発明の効果】
【０００６】
本発明によれば、薬剤マットを内容器内に収容して薬剤マットカートリッジとすることで、薬剤マットの交換時にもこれに手が触れ難くなり、手を洗浄する手間を省いて薬剤マットの交換作業を容易化できる。また、薬剤マットカートリッジを構成する内容器を真空成形法により製作することで、これを外容器と同様の射出成形法により製作する場合と比べてコストダウンを図ることができ、かつ内外容器を互いに異なる工程で効率よく製作することができる。
また、本発明によれば、薬剤カートリッジを保持する収納部と、薬剤を拡散させるための開口部が形成された外装部（フレーム）とを有する収納部材を、一対の側部材及び中央部材で構成し、これらを平坦状と断面コの字状とに形態を変化させることで、各部材を前記展開状態とすれば衣類間等への配置が容易になり、各部材を前記折り畳み状態とすればその厚さを利用した起立姿勢での設置が可能となる。このように、設置場所に応じた様々な利用形態を可能として商品性を高めることができる。
さらに、本発明によれば、中央部材にインジケータマットや消臭マット等を保持することで、薬剤カートリッジの交換時期を認識可能としたり設置場所を消臭可能とすることができる。また、トレーに板状マットを固定して薬剤カートリッジとすることで、該薬剤カートリッジを交換用として別売りしてもその取り扱いを容易にできる。また、吊り下げ用フックにより前記展開状態で衣類間等へ吊り下げて使用できると共に、前記折り畳み状態で使用する際には前記フックを取り外すことができる。さらに、転倒防止片により前記折り畳み状態（起立姿勢）で使用する際の倒れを抑制することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】この発明の実施例における防虫剤容器の展開状態の斜視図である。
【図２】図１の分解斜視図である。
【図３】（ａ）は上記防虫剤容器の外容器の内面側からの平面図、（ｂ）は薬剤マットカートリッジの平面図である。
【図４】図３のＡ－Ａ断面図である。
【図５】上記防虫剤容器の中央容器の分解斜視図である。
【図６】図５のＢ－Ｂ断面図である。
【図７】上記防虫剤容器の起立姿勢での使用状態を示す斜視図であり、（ａ）は外容器の短辺側を接地させた状態を、（ｂ）は外容器の長辺側を接地させた状態をそれぞれ示す。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
以下、この発明の実施例について図面を参照して説明する。
図１に示す例えば衣類用の防虫剤容器１は、折り畳み可能な収納部材１Ａ内に薬剤マットカートリッジ２１を収容してなる。収納部材１Ａは、長方形状の板状をなす一対の外容器（側部材）２をその一長辺側を互いに平行にして上下に並べ、該一長辺側の間にはこれらに沿う帯状の中央容器（中央部材）１１を介設し、該中央容器１１の両側に各外容器２の一長辺側をそれぞれ該長辺に沿う軸線回りで回動可能に連結してなる。以下、前記長辺に沿う方向を左右方向ということがある。
【０００９】
各外容器２は互いに同一構成のもので、それぞれの表裏面（内外面）を互いに同側にして上下逆向きに配置される。各外容器２の図示平面側を表面側（外面側）とすると、各外容器２内にはその裏面側（内面側）から、後に詳述する薬剤マットカートリッジ２１が着脱可能に収納、保持される。
【００１０】

防虫剤容器１は、図１に示す如く各外容器２が中央容器１１を挟んで略面一に並んだ展開状態と、図７に示す如く各外容器２がその内面側を互いに向かい合わせた折り畳み状態との間で変形可能である。この折り畳み状態において、各外容器２及び中央容器１１は、外容器２の長辺に直交する断面でコの字形状を形成する。

【００１１】

各外容器２における中央容器１１と反対側の長辺部の左右中央部には、吊り下げ用フック１９が着脱可能に取り付けられ、該吊り下げ用フック１９を用いて、前記展開状態の防虫剤容器１が洋服ダンスやクローゼット内のハンガーパイプ等に吊り下げ可能となる。このとき、各外容器２が厚さ方向で重ならないことから、衣類間の狭い空間への配置が容易である。

【００１２】

また、防虫剤容器１は、前記折り畳み状態となった際には、各外容器２の二倍の厚さを有することから、図７（ａ）に示す如く各外容器２の一短辺側を接地させた縦長の起立姿勢での設置、あるいは図７（ｂ）に示す如く各外容器２の一長辺側を接地させた横長の起立姿勢での設置が可能となる。

【００１３】

なお、図７（ｂ）に示す横長の起立姿勢においては、中央容器１１を上側として後に詳述するインジケータマット１５用の視認孔１６及び消臭剤マット１４用の揮散孔１７を上方に開口させることが望ましい。またこのとき、各外容器２の中央容器１１と反対側の長辺部に転倒防止片６ａが凸設されることで、防虫剤容器１の厚さ方向での接地最大幅が広がり、防虫剤容器１の厚さ方向での倒れが抑制される。

【００１４】

以下、展開状態での上側の外容器２における「上下」の向きを用いて説明する。

図２、図３（ａ）、図４に示すように、外容器２は、平板状の本体の外周部分を枠部３として残し、枠部３内側の平坦部分を外面側に変位させることで、その内部に薬剤マットカートリッジ２１を内面側から収容可能とする。枠部３よりも内側の部分は例えば斜めに傾斜した細身の格子４を残して切除され、切除部分が薬剤揮散用の複数の揮散孔（開口部）５となる。なお、図３（ａ）は外容器２を内面側から見た平面図である。

外容器２の格子４は、防虫剤容器１を折り畳み状態とした際には、その平面視で向かい合う各外容器２のもの同士が略直交するように交差する。

【００１５】

枠部３の上縁部及び左右側縁部には、これらの長手方向に沿って延びる外容器２の厚さ方向と平行な上帯状部６及び左右帯状部７がそれぞれ設けられる。上帯状部６の両端部と左右帯状部７の上端部とは外容器２の平面視で湾曲状に連なり、もって各帯状部６，７が外容器２の平面視でコ字状に連なる。

【００１６】

左右帯状部７の先端部（下端部）７ａは枠部３の下縁よりも下方に延出し、左右帯状部７ａ間には中央容器１１の左右端部が挟持される。左右帯状部７ａの左右内側には係合軸Ｋ１が突設され、係合軸Ｋ１が中央容器１１の左右端部にそれぞれ一対に形成された係合孔Ｋ２の一方に回動可能に係合する。中央容器１１の左右端部の他方の係合孔Ｋ２には、展開状態での下側の外容器２における左右線端部の係合軸Ｋ１が回動可能に係合し、もって中央容器１１の両側に各外容器２が回動可能に連結される。換言すれば、中央容器１１を挟んで各外容器２が回動可能に連結される。

【００１７】

上帯状部６の例えば図３（ａ）中左側には、外容器２の内面側に突出する係止爪８ａが設けられると共に、上帯状部６の図３（ａ）中右側には、係止爪８ａが着脱可能に係合する係止部８ｂが設けられる。これら係止爪８ａ及び係止部８ｂは、折り畳み状態での他方の外容器２における係止部８ｂ及び係止爪８ａとそれぞれ係合し、もって防虫剤容器１を折り畳み状態に保持する。

【００１８】

上帯状部６の左右中央部には、吊り下げ用フック１９の容器側フック１９ｂを係止させる被係止部９が設けられる。

ここで、吊り下げ用フック１９は、円弧状に湾曲する比較的大型のメインフック１９ａの下方にこれと逆方向に湾曲する比較的小型の容器側フック１９ｂを連続的に設けたＳ字状のものである。

被係止部９は、左右に並ぶ二つの角孔を形成してこれらの間に係止ピン９ａを切り残してなり、係止ピン９ａに容器側フック１９ｂを着脱可能に係止させる。

【００１９】

このような外容器２は、例えばポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート等の適度の剛性を有する熱可塑性樹脂を用いたインジェクション成形法（射出成形法）による一体形成品とされる。

【００２０】

図３（ｂ）を参照し、薬剤マットカートリッジ（薬剤カートリッジ）２１は、長方形状の板状をなす薬剤マット２２を、外面に開口部が形成されたカートリッジ容器（内容器、トレー）２３の内面側に固定してなる。

薬剤マット２２は、濾紙、不織布、スポンジ等の多孔質マットにピレスロイド系殺虫剤等の薬剤を含浸させたものであり、薬剤マット２２がカートリッジ容器２３内に一体的に収納、保持される。

【００２１】

図４を併せて参照し、カートリッジ容器２３は、薬剤マット２２よりもやや大きく外容器２よりもやや小さい長方形状の板状をなすもので、カートリッジ容器２３の厚さ方向で所定深さを有する扁平トレー状の容器本体２４と、容器本体２４の開口側に取り付く比較的浅い凹凸を有する容器カバー２５とを有してなる。なお、カートリッジ容器２３が容器本体２４のみからなる（容器カバー２５を有さない）構成としてもよい。

【００２２】

容器本体２４及び容器カバー２５は、それぞれ例えば例えばポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート等の適度の剛性を有する熱可塑性樹脂を用いたバキューム成形法（真空成形法）による一体形成品とされる。

【００２３】

容器本体２４及び容器カバー２５の外周には平坦なフランジが切り残され、これら容器本体２４及び容器カバー２５のフランジ同士が超音波シール法等による熱融着又は接着剤による接着により一体に接合される。薬剤マット２２は、接合前に容器本体２４内に予め収容される。

【００２４】

カートリッジ容器２３（薬剤マットカートリッジ２１）の外周には、接合用のフランジ２６が設けられる。一方、外容器２の枠部３における上辺部及び下辺部の左右両側には、外容器２の内面側に切り起こすように係止爪２６ａが設けられる。

【００２５】

薬剤マットカートリッジ２１は、その長辺側のフランジ２６を外容器２の各係止爪２６ａに内面側から係合させることで、外容器２の内面側に一体的かつ着脱可能に嵌め込まれて保持される。なお、係止爪２６ａは、外容器２の両長辺側にそれぞれ一対に設けられるが、これを短辺側、長辺側にそれぞれ設けるようにしてもよい。また、係止爪２６ａの数は任意であり、かつ対向する長辺又は短辺の一方に二つ、他方に一つといった異なる数の配置としてもよい。

【００２６】

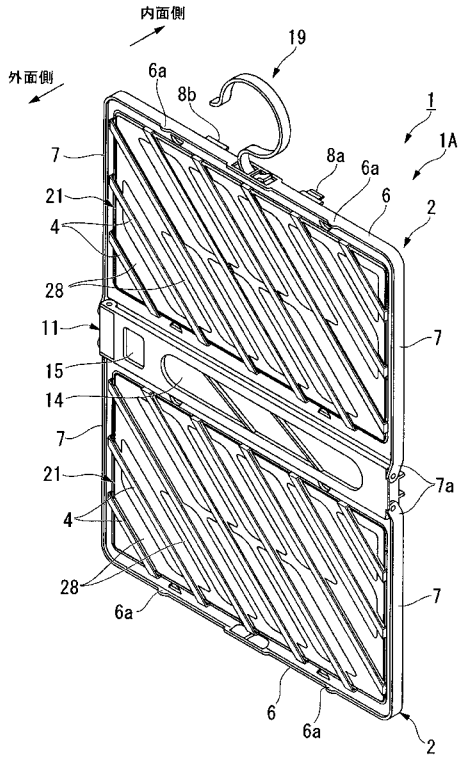
図３（ｂ）を参照し、カートリッジ容器２３の容器本体２４及び容器カバー２５は、フランジを含む外周部分を枠部２７として残し、枠部２７内側の部分を前記外容器２の内側部分と同様に斜めに傾斜した細身の格子２８を残して切除し、切除部分を薬剤揮散用の複数の揮散孔（開口部）２９とする。なお、枠部２７内側の中央部分では、各格子２８の剛性を確保するべくこられを互いに連結している。

【００２７】
図２，４を参照し、薬剤マットカートリッジ２１は、容器本体２４の格子面を外容器２の格子面に向けてその内面側から収容される。このとき、外容器２及びカートリッジ容器２３の各格子４，２８は互いに交互に並ぶようになっている。このため、外容器２及びカートリッジ容器２３の色や成形肌等を異ならせることで、複合的な外観を有する防虫剤容器１を構成することが可能となり、装飾性やインテリア性が高められる。
【００２８】
薬剤マット２２に含浸された薬剤は、カートリッジ容器２３に形成された複数の揮散孔（カートリッジ開口部）２９及び外容器２に形成された複数の揮散孔５を通じて揮散し、洋服ダンスやクローゼット内を防虫する。
そして、薬剤マット２２がカートリッジ化されることで、その着脱時（交換時）に薬剤マット２２が手に触れ難く、手に薬剤が付着して汚してしまうことを抑止する。また、詰め替え用の薬剤マット２２の取り扱いが容易で別売化もし易くなる。さらに、外容器２を薬剤マットカートリッジ２１の表裏面の両面ではなく一方の面のみを覆う簡素な構成とすることが可能である。
【００２９】
図２，５，６に示すように、中央容器１１は、外容器２の長辺と同等の長さを有する帯状（換言すれば、外容器２の長辺と同等の長さを有する長辺と外容器２の短辺よりも短い短辺とを有する長方形状の板状）をなし、その厚さ方向で所定深さを有する扁平トレー状の容器本体１２と、該容器本体１２の開口側に取り付く比較的浅い凹凸を有する容器カバー（蓋部材）１３とを有してなる。
【００３０】
容器本体１２及び容器カバー１３は、それぞれ例えばポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート等の適度の剛性を有する熱可塑性樹脂を用いたインジェクション成形法（射出成形法）による一体形成品とされる。
【００３１】
容器本体１２及び容器カバー１３は、中央容器１１の一短辺側において短辺に沿う軸線回りで回動可能に連結される。容器カバー１３及び容器本体１２は、中央容器１１の他短辺側の端部において互いに係合可能であり、容器カバー１３が容器本体１２の開口側を閉じた状態を保持可能である。
【００３２】
中央容器１１内には、これに沿って長い帯状（長方形状の板状）の消臭剤マット１４と、中央容器１１に沿う正方形状の板状のインジケータマット１５とが、中央容器１１の長手方向で互いに略面一に並ぶように収容される。すなわち、中央容器１１は、消臭剤マット１４収納用の消臭剤収納部１４ａとインジケータマット１５収納用のインジケータ収納部１５ａとを有する。
【００３３】
この実施例では、インジケータマット１５は回動基端側に、消臭剤マット１４は回動先端側にそれぞれ配置される。容器本体１２の内側には、消臭剤マット１４及びインジケータマット１５の収納空間を区画する仕切り１２ａが設けられる。なお、容器カバー１３をインジケータマット１５や消臭剤マット１４やインジケータマット１５を組み込んだカートリッジとして構成し、容器カバー１３を容器本体１２に嵌め込む構造とすることも可能である。
【００３４】
容器カバー１３には、その回動基端側にインジケータマット１５を容器外部から視認可能とする視認孔１６が形成されると共に、回動先端側には消臭財マット用の揮散孔１７が形成される。視認孔１６はインジケータマット１５よりもやや小さい正方形状に形成され、揮散孔１７は消臭剤マット１４よりもやや小さくかつ容器本体１２の長手方向に長い楕円状に形成される。揮散孔１７の中央部にはその長手方向に対して傾斜する複数の格子１８が形成される。

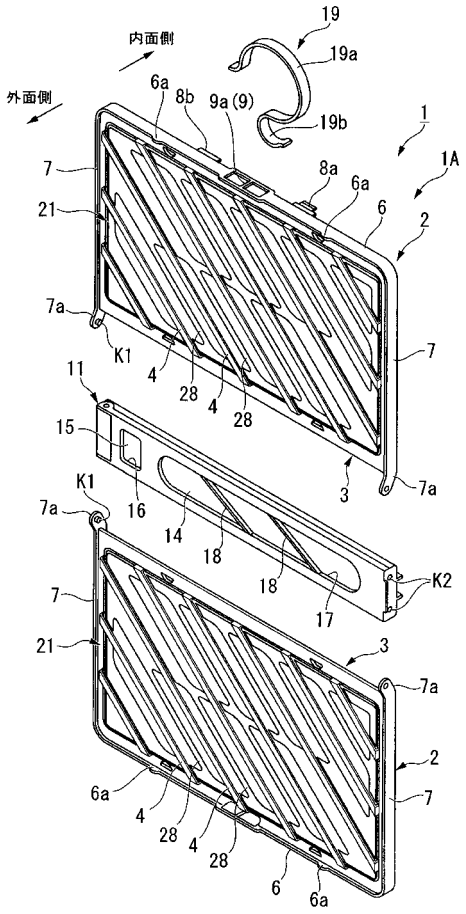
【００３５】
消臭剤マット１４は、その消臭成分を揮散孔１８を通じて揮散させて洋服ダンスやクローゼット内を消臭する。また、インジケータマット１５は薬剤マットカートリッジ２１（及び消臭剤マット１４）と同時交換することで、視認孔１６を通じた色の変化の視認により薬剤マットカートリッジ２１（及び消臭剤マット１４）の交換時期を認識可能とする。
【００３６】
以上説明したように、上記実施例における防虫剤容器１は、真空形成法により製作したカートリッジ容器２３内に薬剤マット２２を収容して薬剤マットカートリッジ２１とし、薬剤マットカートリッジ２１を射出成形法により製作した外容器２内に交換可能に収容したものである。
【００３７】
この構成によれば、薬剤マット２２をカートリッジ容器２３内に収容して薬剤マットカートリッジ２１とすることで、薬剤マット２２の交換時にもこれに手が触れ難くなり、手を洗浄する手間を省いて薬剤マット２２の交換作業を容易化できる。また、薬剤マットカートリッジ２１を構成するカートリッジ容器２３を真空成形法により製作することで、これを外容器２と同様の射出成形法により製作する場合と比べてコストダウンを図ることができ、かつ内外容器２を互いに異なる工程で効率よく製作することができる。
【００３８】
また、上記防虫剤容器１は、外容器２を扁平状に形成すると共に外容器２を一対に設け、各外容器２を一平面に沿うように並んだ展開状態と厚さ方向で向かい合った折り畳み状態との間で回動可能に連結したものである。
【００３９】
この構成によれば、扁平状の各外容器２を展開状態とすれば衣類間への配置が容易になり、各外容器２を折り畳み状態とすればその厚さを利用した起立姿勢での設置が可能となる。このように、設置場所に応じた様々な利用形態を可能として商品性を高めることができる。
【００４０】
なお、この発明は上記実施例に限られるものではなく、例えば、各外容器２を中央容器１１を介さず直接回動可能に連結するようにしてもよい。また、外容器２の平面視形状は長方形状に限らず他の多角形状や円弧を有する形状等にしてもよい。同様に、各揮散孔５，１７，２９の平面視形状を様々に変更してもよい。さらに、中央容器１１が消臭剤マット１４及びインジケータマット１５の一方のみを収容する、あるいは何れも収容しない単なる連結部材とした構成としてもよい。
そして、上記実施例における構成はこの発明の一例であり、当該発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能であることはいうまでもない。
【符号の説明】
【００４１】
１　防虫剤容器
１Ａ　収納部材
２　外容器（側部材）
４　格子
５　揮散孔（開口部）
６ａ　転倒防止片
１１　中央容器（中央部材）
１３　容器カバー（蓋部材）
１４　消臭剤マット（中央薬剤マット）
１４ａ　消臭剤収納部（中央収納部）
１５　インジケータマット
１５ａ　インジケータ収納部
１９　吊り下げフック

２１　薬剤マットカートリッジ（薬剤カートリッジ）
２２　薬剤マット
２３　カートリッジ容器（内容器、トレー）
２６ａ　係止爪（係止部）
２９　揮散孔（カートリッジ開口部）

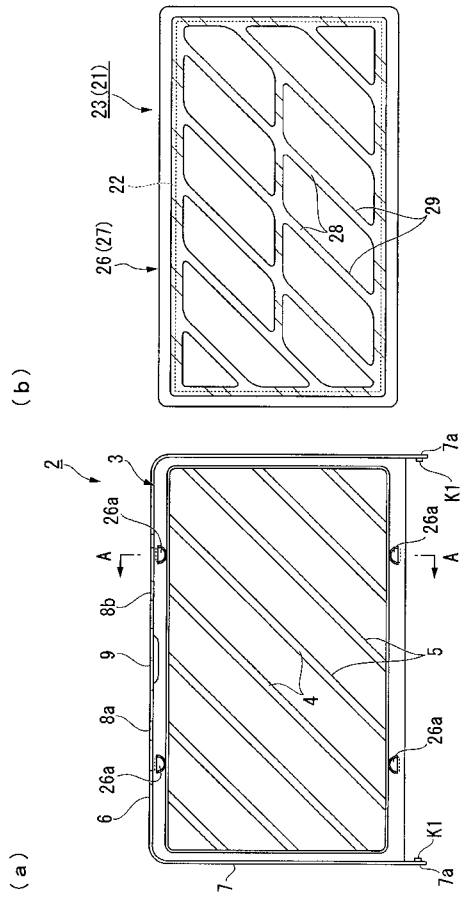
【図１】



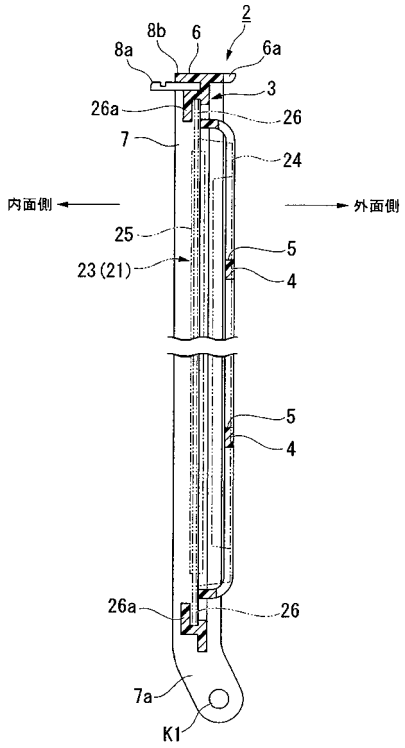
【図２】



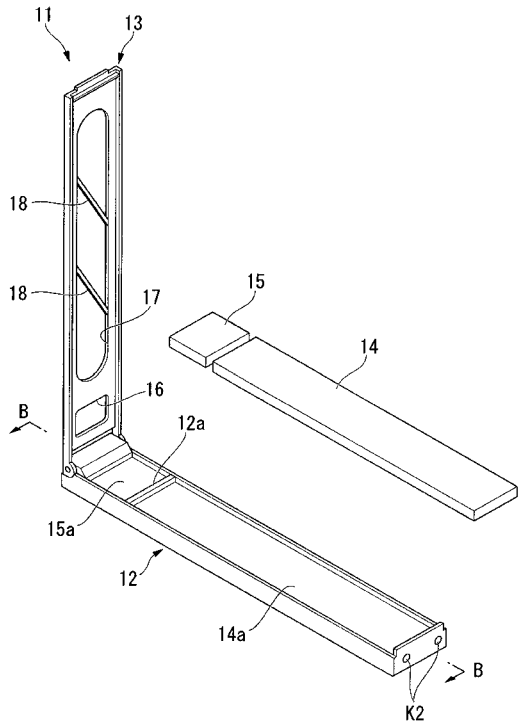
【図３】


(b)
23(21)
22
26(27)
28
29
(a)
2
3
7a
K1
26a
A
8b
9
5
4
8a
6
7

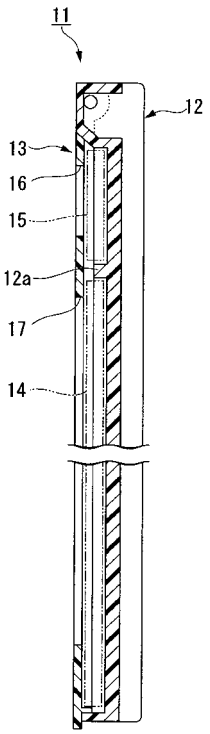
【図４】


2
8b
6
8a
6a
3
26a
26
7
24
内面側
外面側
25
5
23(21)
4
7a
K1

【図５】

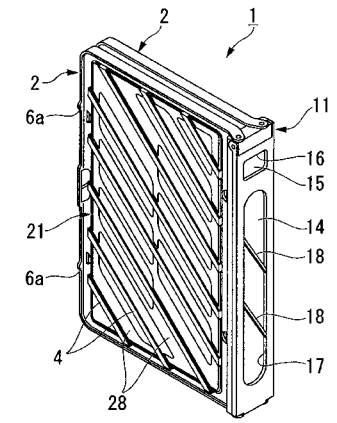

11
13
18
17
15
14
16
B
12a
15a
12
14a
K2

【図６】

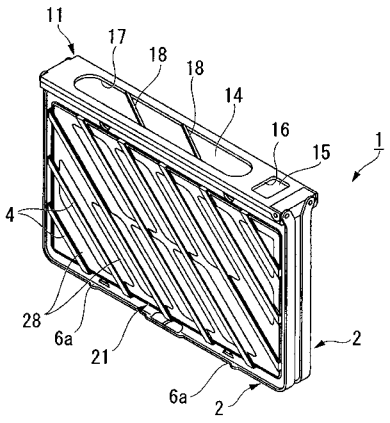

11
12
13
16
15
12a
17
14

【図７】

（ａ）


2
1
2
6a
11
16
15
21
14
18
6a
18
4
17
28

（ｂ）


11
17
18
18
14
16
15
1
4
28
6a
21
2
6a
2

フロントページの続き

(74)代理人　100152146
弁理士　伏見　俊介
(72)発明者　坂田　哲夫
東京都台東区台東１丁目５番１号　凸版印刷株式会社内
(72)発明者　早味　知子
大阪府豊中市大黒町１丁目１番１１号　大日本除蟲菊株式会社内
(72)発明者　浅井　洋
大阪府豊中市大黒町１丁目１番１１号　大日本除蟲菊株式会社内

Ｆターム(参考) 2B121 CA02 CA16 CA21 CA29 CA32 CA44 CA53 CA59 CA81 CC02
CC40 EA02 FA01 FA02 FA05